

図書館で過ごした学生時代

藪越知子（助教 英語リーディング）

本稿を書くにあたって、学生時代に図書館や図書室で過ごした時間を振り返ってみた。小学校の図書室から始まり、中学校、高校、大学での学生生活と図書館はセットのようなものだ。私の中学・高校時代は部活で忙しかったため、放課後に図書室で読書をするという事はあまりなかったが、大学生になってから自然と図書館を利用するようになった。大学生の時間割というものは、朝の1時限から夕方5時限まですべて授業で埋まっているということはなく、どこかに空き時間ができるものだ。その空き時間をどこでどう過ごすか。私はよく図書館へ足を運んだ。

あの静かで落ち着いた空間の中で私は一番集中することができた。図書館では邪魔が入ることはなく、騒音が気になったり、誰かに声を掛けられたりして、作業を中断することは滅多にないのだ。もちろん携帯電話は使用禁止なので、携帯のことを気にする必要もない。図書館の整った環境・設備も私の集中力を高めてくれた。館内は暑すぎず、寒すぎず、ちょうど良い室温に保たれている。あの大きな机も大変有難かった。何も物が置かれておらず、すっきりと広々とした机の上に、本や資料や辞書などを広げて、ゆったりと勉強することができた。また、周囲の人々にも助けられた。みんな机に向かって勉強しているので、私も自然とやる気が出てきた。勉強に疲れた時は、気分転換に新聞や雑誌などを読むと良いだろう。私は休憩時間に英字新聞や洋雑誌を読むことが楽しみであった。そして、図書館で勉強した後は、いつも満足感や達成感を感じた。今日も1日充実していたなと思い、家に帰ってからリラックスできたのだ。ついでとってはなんだが、館内は飲食禁止のため、間食することがなく、ダイエット効果も

あったのではないかと思います。

図書館に一番お世話になったのは大学院生時代だった。あの頃は仕事もしていたため、勉強時間を確保するのが大変だった。通学時間が惜しかったので、大学付近に部屋を借りた。仕事が終わった後、大学院の授業がない日は図書館へ直行し、閉館時間の夜10時まで図書館で過ごした。学部生の頃は開架閲覧室を利用していたが、私の母校では、院生になると図書館の書庫にある個室の自習室を利用することができた。私はよくノートパソコンを持参して、そこで論文を書いた。個室では学内LANに接続できたので、論文を執筆しながら、必要な図書を検索したり、オンラインジャーナルを入手したりすることができた。図書館という空間があったからこそ、今の私があるのではないかと思っている。

図書館に行けば、色々な作業がはかどるだろう。集中すれば、1時間かかる作業でも30分程度で片付けることができるかもしれない。余計なことに手を出さず、目の前の作業に集中して、1つずつこなしていけば、目標に近づくはずだ。これまでにあまり図書館を利用したことがない人は、ぜひ一度図書館を訪れて、その魅力を感じてもらいたい。

